

第19回警視庁・SDA 共催安全運競技大会のレビュー
～11/18(金)定例会議において、11/2(水)開催の同大会に関する各社の所見を収録～

◆交通法規学科試験

- ・難問、珍問、ひっかけ問題が幾つかあり、難し過ぎたのではないか。
平均減点 30 点(6 問)であった(前回平均減点 12.5 点(2.5 問))。
前回難易度が低かったため、今回難易度を上げた結果、上げ過ぎたのだろうか。
正解率 10%以下が 3 問(前回はなし)、1 名のみ正解が 1 問(問 10)→明らかなひっかけ問題か。
全員正解は 1 問のみであった(前回は 4 問)。
- ・学科は過去の問題又は類似する問題の範囲からの出題を希望する。
- ・問題数は 20～25 問程度に増やした方が、差が付きやすいのではないか。
早期に席を立つ者が目立ったが、問題数を増やしても現行の 10 分間で十分であるとする。

◆コース説明及びデモ走行

- ・コース説明は各競技直前に実施して欲しい。
選手がコースを忘れてしまう(今回はコースミスが続出した)。
- ・法規走行及び応用走行とも、デモ走行をして欲しい。
選手が実際にデモ走行を見てコースを確認し、イメージアップができる。
コース確認なので速く走行する必要はない。
三輪ではなく二輪(白バイでもよい)での走行で十分だ。

◆法規走行競技

- ・審査基準がより緩くなったと感じる(平均減点 15.1 点(前回平均減点 17.7 点))。
- ・殆ど減点されなかったエリアがある・・・C エリア:減点は 6 名のみで全て 3 点減点。
- ・審判による判断の個人差をなくすために、判断基準が緩めになったのだろうか。
スタッフが横で見ている「今のは減点しないのか?」と感じたケースが非常に多くあった。
- ・最後に、違反の多かった項目、場所等を解説しながら、模範走行を展示して欲しい。

◆応用走行競技

- ・前回より非常に難易度が上がっている(平均減点:56.5 点(前回平均減点:35.3 点))。
弊社としては難易度が上がっても問題ないとするが、他社の参加者や初参加の選手には難易度が高いことで、今後参加を敬遠される可能性も考えられる。
- ・審判が審査エリア担当の警察官から判断ミス(多くは接触の見逃し)を指摘されるケースを多く見た。

◆コース設定、作成について

- ・コースミスを防ぐために、パイロンで塞ぐ、あるいはコースに矢印を書くなど、もっと選手側に配慮したコースづくりをして欲しい。参加者の中にはバイク競技大会参加経験がない者も多い。

・パイロン及びマーキー等の設置については全国大会(中央研修所)のように設置要領、設置基準を、数値を入れて事前に図示説明して欲しい。

◆採点表及び採点要領について

- ・採点表のチェック項目以外の違反は減点できないのか。
- ・採点項目及び採点要領については事前に打ち合わせ及び調整がなされているのか。
- ・同じ違反が何回もある場合、チェックが何回も入っており、また、合計点が記載されておらず、採点集計係が改めて計算しなければならないため、非常に手間取った。
- ・今回は、あまり厳密に採点されていないような感じがした。

◆過去の総合優勝者の参加について

- ・個人総合優勝をしても、次回以降参加出来るようにして欲しい。
チーム成績には反映させず、個人賞からは除外等の規定を設ける。
個人総合優勝者の走行は他の選手の模範にもなり、参加選手への刺激にもなる。
SDA セーフティコンテストも同様に参加機会を与えて欲しい。
- ・オブザーバー参加又はチャンピオン大会等を設定して過去の優勝者も参加できるようにして欲しい。

◆要望事項

- ・警視庁との事前打ち合わせに、希望する SDA 会員会社も参加させてほしい。

以 上